

# 令和4年度 校内研究計画

## 1 研究主題

「生き生きと自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成」  
～単元のゴールに向けた一貫性のある評価や振り返り活動の工夫を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日の課題の観点から

現在、国際交流が盛んに行われ、政治、経済、文化など様々な面で、グローバル化が進んでいる。このような世界的な流れに対応していくためには、国際的な視野に立ち、自ら考え、判断し、自分の考えを表現する力が重要視される。

また、令和2年度から小学校では、外国語活動・外国語科が本格実施された。そこでは、「これまでの取り組みにおける成果と課題を踏まえ、中学年から『聞くこと』『話すこと』を中心として外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機づけを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に文字を『読むこと』及び『書くこと』を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視すること」とされている。

### (2) 本校教育目標の具現化の観点から

本校の学校教育目標に描く3つの子ども像を目指す上で、その源にあるものは「意欲」である。言い換えれば「〇〇したい」という欲求があればこそ、**元気に**、課題について**考え**たり、友だちに**優しく**なれたりするのである。

「〇〇したい」という欲求の啓発・増強は、学校教育目標達成につながることはもちろん、他教科学習等への転用にもつながる。低学年の学活における英語、中学年で外国語活動、高学年で外国語科という流れの中には、「生き生きと自分の思いや考えを伝え合う」ことが自ずと担保されているのである。そういった意味を含めて、本研究主題を設定した。

### (3) 児童の実態の観点から

本校では、外国語を研究の主たる対象領域に据えて4年目を迎えた。

初年度の反省・課題に沿って昨年度（令和3年）の研究諸活動が行われた。学年末に3年生以上の全児童を対象に行ったアンケートによると、「外国語・外国語活動の学習が好き」という児童は63%であり、主な理由は「英語を学ぶことが楽しい」でありこれまでの研究の成果が見られる。

一方で、残りの37%に目を向けると、「発音や言葉が難しい」「覚えられない」という理由が挙げられている。「話したい」「書きたい」という気持ちはあっても自信が持てず、消極的になりがちな児童も見られる。そこで、目指すゴール像を教師と児童が共有し、単元のゴールに向けた一貫性のある評価や振り返りの活動の工夫を必要とする。

## 3 研究の目標

学活（低学年）、外国語活動及び外国語科において、単元のゴールに向けた一貫性のある評価や振り返り活動の工夫を通して、生き生きと自分の思いや考えを伝え合う児童の育成のあり方を明らかにしていく。

#### 4 研究の仮説

学活（低学年）・外国語活動及び外国語科の学習において、単元のゴールに向けた一貫性のある評価や振り返りの活動を設定することによって、児童は、生き生きと自分の思いや考えを伝え合うことができるであろう。

#### 5 研究の内容

単元全体のゴールに向けた一貫性のある評価や振り返り活動の工夫に関わって

※ゴール「生き生きと自分の思いや考えを伝え合う姿」

視点1 単元全体のゴールに向けた、一貫性のある評価活動が工夫されているか

→各授業において、ゴールを意識した評価活動が工夫されているか

視点2 単元全体のゴールに向けた、一貫性のある振り返り活動が工夫されているか

→各授業において、ゴールを意識した振り返り活動が工夫されているか

視点3 単元全体のゴールにつながる、児童同士の協働的な学び合いの場が工夫されているか

→各授業において、ゴールを意識した協働的な学び合いの場の設定が工夫されているか

今年度は視点1と視点2に重点を置いて研究を進めていく。

#### 6 研究の方法

(1) 主として授業実践による研究

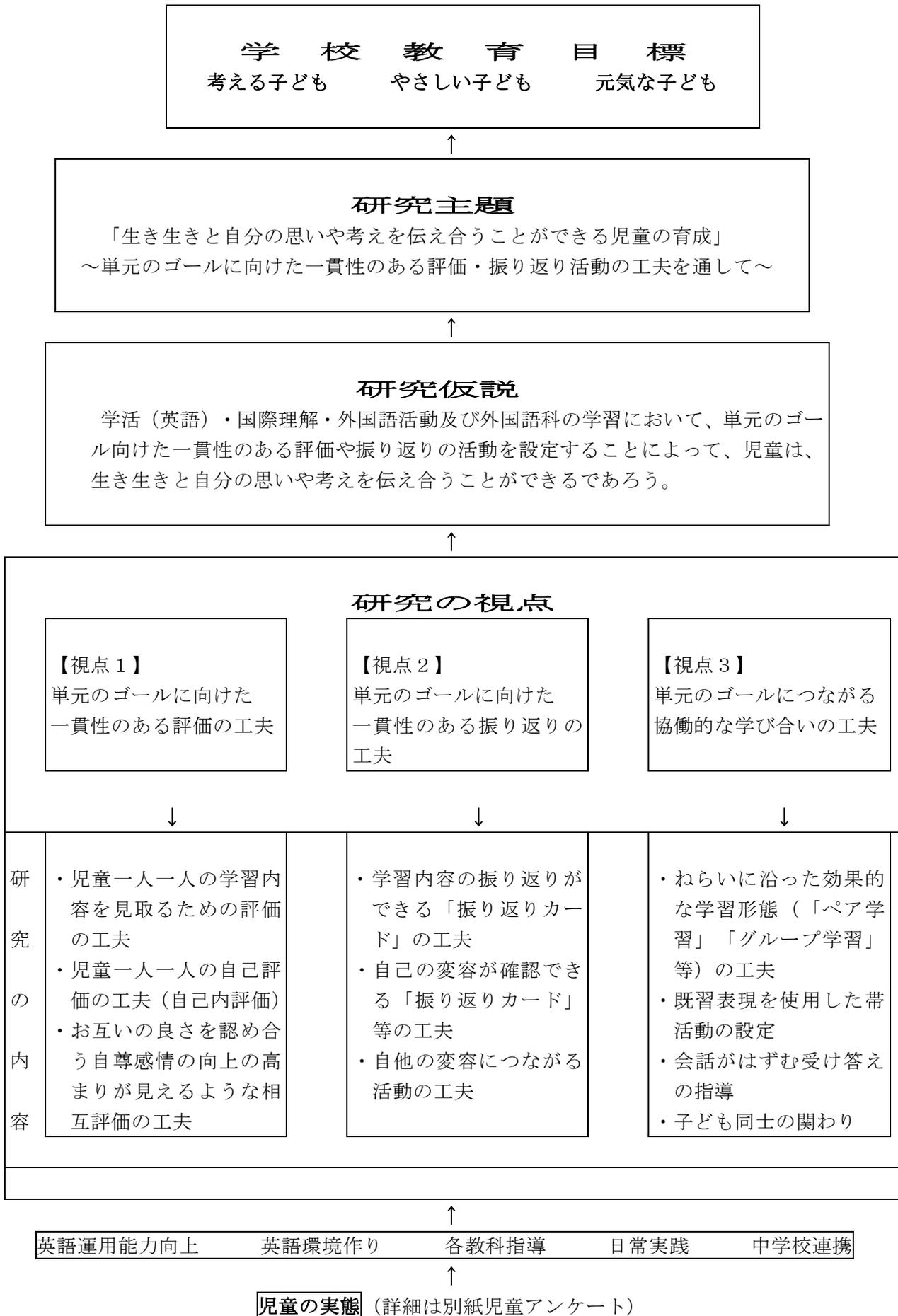
(2) 児童の実態把握と検証

(3) 小中連携による実践研究

(4) 参考文献や資料による理論研究や先進校視察や各種研修会への参加等

(5) 学習環境の整備

7 研究の全体構想図



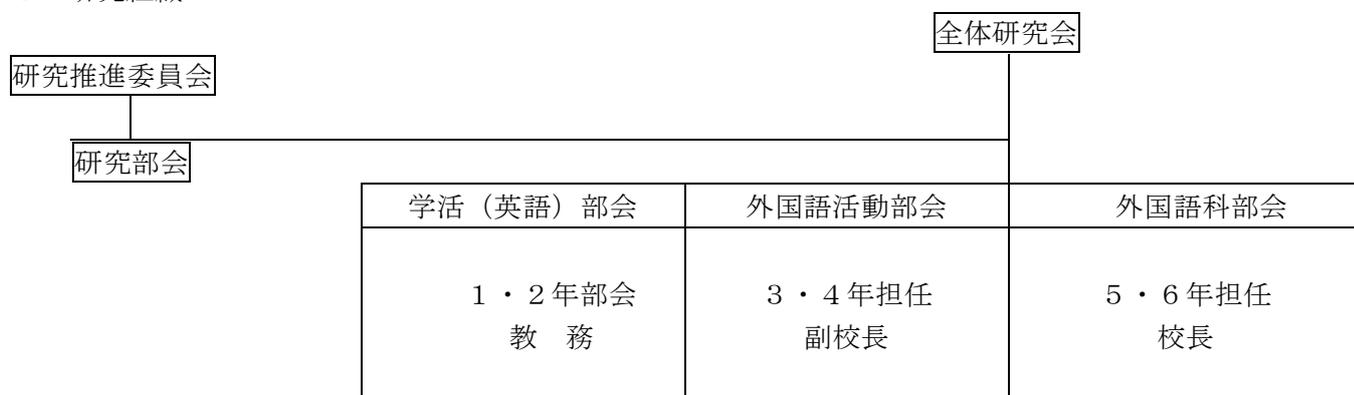
## 8 目指す児童像

高学年	自他の良さを認め、主体的に相手と関わり合いながら、外国語を用いて自他の思いや考えなどを伝え合うことを楽しむ児童
中学年	自他の良さを認め、主体的に相手と関わり合いながら、外国語を用いて自己の思いや考えなどを伝えることを楽しむ児童
低学年	自他の良さを感じ、相手との関わり合いを通して、楽しく互いの思いを表現できる児童

## 9 学活（英語） 外国語活動 外国語科の時間設定

高学年	外国語科（週 2 時間 年間 7 0 時間程度）
中学年	外国語活動（週 1 時間 年間 3 5 時間程度）
低学年	学活（英語）（年間 1 0 回程度）

## 10 研究組織



※必要に応じて学団部会も設置する。

※校長、副校長、担任外教員も各部会に所属する。

## 1.1 研究の日程

回数	月 日	教科等	内 容	その他
1	4月 6日 (水)		R 4年度研究計画提案	
2	4月 21日 (木)		生徒指導研	
3	5月 19日 (木)	外国語活動 外国語	① ②授業研の事前研究会	
4	5月 26日 (木)	外国語	授業研究会① 4年	
5	6月 23日 (木)		心のサポート研	
6	6月 30日 (木)	外国語活動	授業研究会② 6年	○
5	夏期休業中	希望の教科	実技研修	
6	8月 25日 (木)	外国語 教科	③ ④授業研の事前研究会	
7	9月 1日 (木)	外国語	授業研究会③ 5年	
8	9月 8日 (木)	学活 (英語)	授業研究会④ 2年 特別支援学級	○
9	10月 27日 (木)	外国語活動 学活 (英語)	⑤ ⑥授業研の事前研究	
10	11月 24日 (木)	外国語	授業研究会⑤ 3年	○
11	12月 1日 (木)	学活 (英語)	授業研究会⑥ 1年	
12	12月 8日 (木)		生徒指導研	
13	1月 26日 (木)		研究の反省・まとめ	
14	2月 24日 (金)		次年度研究計画等	

※後日、確定版を配布。

※現職教育については、長期休業前後に行う予定。

## 1.2 研究を支える日常実践について

### (1) 「学び合い活動」にかかわる日常活動

- ・スピーチ (朝の会、帰りの会等) ・聞き方、話し方の指導 (ポイント提示)

### (2) 学力向上の取り組み

- ・家庭学習・漢字計算マスターチェック・パワーアップタイム